

東京医師アカデミー クリニカルフェロー

ECMO specialist コース 募集要項

1) 応募資格	平成31年4月の時点で6年以上の医歴があり、以下の全ての要件を満たしている者 ①日本救急医学会・救急科専門医を取得していること ②日本救急医学会学術集会総会または日本集中治療医学会学術集会総会での筆頭演者としての発表が1演題以上あること ③日本呼吸療法医学会の会員であること
2) 募集人員	1名程度
3) 所属先	東京都立多摩総合医療センター 救命救急センター科
4) 研修期間	3年間
5) 選考日	平成31年1月30日(水曜日)(予定)
6) 選考会場	応募者に直接連絡いたします。
7) 選考方法	個別面接(20分程度)、口頭試問(20分程度)
8) 合否連絡	選考後3週間以内に合否をご本人にご連絡いたします(合格通知後1週間以内に誓約書の提出をお願いいたします)。
9) 応募方法 提出書類	以下のものを申込期限までに下記11)の申込先に郵送すること ① 応募用紙兼履歴書 ② 医師免許証の写し ③ 救急科専門医の資格証明書の写し ④ 推薦状2通 ⑤ 日本呼吸療法医学会の会員番号 ※提出いただいた書類はご返却できませんので予めご了承下さい。
10) 申込期限	平成30年12月21日(金曜日)必着
11) 申込先及び 問合せ先	〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号 東京都庁第一本庁舎24階中央 病院経営本部経営企画部職員課医師アカデミー担当 (電話)03-5320-5861
12) コース内容 に関する 問合せ先	清水 敬樹 (東京都立多摩総合医療センター 救命救急センター部長) (電話)042-323-5111(代表)
13) 備考	選考日当日は、医師免許証の原本を持参すること。

ECMO specialistコース

主たる研修病院 (所属病院)	東京都立 多摩総合医療センター	
連携して研修する病院・施設(予定)	■東京都立小児総合医療センター・集中治療科【小児・新生児ECMO】、■日本医科大学付属病院 外科系集中治療室【日本のECMOのtop leaderによる教育】、■岡山大学病院医学部附属病院 高度救命救急センター【肺移植を含めたECMO】、■広島大学病院医学部附属病院 高度救命救急センター【間質性肺炎へのECMO】、■セントトーマス病院・ECMOセンター(英国)【FFのECMO】、■グリーンフィールド総合病院・ECMOセンター(英国)【世界基準のECMO】、■クィーンメアリー病院(香港)【ECMOシミュレーション】	
研修時に必要とする知識・技量 (応募資格)	平成31年4月の時点で6年以上の医歴があり、以下の全ての要件を満たしている者 ①日本救急医学会・救急科専門医を取得していること ②日本救急医学会学術集会総会または日本集中治療医学会学術集会総会での筆頭演者としての発表が1演題以上あること ③日本呼吸療法医学会の会員であること ECMO診療は、respiratory ECMO、cardiac ECMO、ECPRに大きく分けることができる。これらの領域に関する基本的な知識、つまり呼吸、循環、心肺蘇生に関しては一定の知識や経験がECMO導入にあたり非常に重要になる。これらの知識を取得していることが望ましい。	
コース 責任者	氏名(所属)	清水 敬樹 (東京都立多摩総合医療センター 救命救急センター)
	資格名	日本救急医学会指導医・専門医、日本集中治療医学会専門医、日本蘇生学会指導医、日本外傷学会専門医、日本熱傷学会専門医、麻酔科標榜医
	専門分野	救急医学、集中治療医学、蘇生医学、ECMO、熱中症、広範囲熱傷、母体救命、
臨床指導体制	①連日の早朝からの救急・集中治療領域の講義、②連日の3時間のカンファレンス、③小児総合医療センターとのECMOカンファ、④救命救急センターでの多職種カンファ、⑤インターネットでの多施設ジャーナルクラブへの毎週の参加、⑥M&Mカンファ、⑦リハビリカンファ、⑧病棟回診、⑨ECMOカンニューレシミュレーション、⑩ECMO搬送シミュレーション、⑪ECMOトラブルシューティングシミュレーション、⑫外傷カンファ、⑬各種のレジストリへの参加、⑭10名以上の指導医による教育、⑮帝京大学:三宅康史教授の回診(水曜日)と教育、⑯各種勉強会などへの参加奨励、⑰海外留学経験が豊富な小山医長によるグローバルな観点からの指導 チーム制であり、多くの症例の経験が可能である。また50件/年以上の学会発表をおこなっており、発表機会も多くスライド作成、プレゼンテーション鍛錬、論文作成の指導を奨励している。専門家による統計及びTCGも積極的にこなされている。ECMO診療は海外での勉強の機会が多く、英語、英会話への学習意欲もグループとして高い。	
臨床研究	これまで 行ってきた 研究と実績	救急医学、集中治療医学に関する多施設共同研究に関しては多数の研究に参加している。当センターでの経験症例数はER40000人、救命救急センター1500人という受け入れ数をベースに非常に多くの重症患者を受け持つ土壌がある。毎年、ECMO診療・教育としては香港シミュレーションコース、Euro ELSO、日本ECMOプロジェクト、世界各地でのECMOシミュレーションコースなど広く受講、参加している。ECPRの研究、respiratory ECMOに関する様々な研究も進行中である。 特にECMO搬送に関しては実績及び体制、システム作りなど国内トップの位置におり、診療科全員が365日対応可能である。人ではなく、システムが先にあり、そこに人を当てはめる我が国では類を見ない体制が確立されている。Cardiohelpという世界基準のECMO装置、回路の治験にも参加している。
	今後行う 研究と 研究体制	①SOS関東でのECPRに関する研究、解析 ②ECMO搬送に関する研究 ③ダブルルメンカニューラの研究 ④ROTEMを用いた抗凝固薬、ECMO、母体救命、消化管出血への応用 ⑤VA-ECMO時の順行性シース挿入での下肢虚血への影響 ⑥高齢者へのECPRの適応 ⑦偶発性低体温患者へのECPRの適応 ⑧透視導入によるカニューレーション手技の変化 ⑨VAV-ECMOの有用性 ⑩ECMOシミュレーションの工夫
研修項目	・救急医・集中治療医の基本的技術、思考過程を学ぶ・ECMO装置、回路に関する十分な知識を得る・VV-ECMO特有の管理方法を学ぶ・VV-ECMO中のトラブルシューティングを学ぶ・透視下でのカニューレーション手技、透視装置の扱いを学ぶ・E-CPRの適応、管理方法を学ぶ・血管外科的なカットダウンや縫合方法を学ぶ・大血管損傷時の対処方法を学ぶ・Mobile ECMOの基本、応用を学ぶ・東京消防庁との協働を学ぶ・ECMO中の様々な全身、局所モニタリングの知識を得る・肺移植の適応及び移植までの手順、移植の実際を学ぶ・小児特有の呼吸、循環の病態を学ぶ・上記のように救急医・集中治療医としての基本的な手技、診療というベースを確立した上で、ECMOに特化した技術の習得を図る。血管外科、心臓血管外科、呼吸器外科としての最低限の手技も学ぶ。また、ECMO装置、回路、抗凝固の専門的知識も十分に得て、透視装置の扱いも習得する。小児や移植に関しても学び、海外での研修で世界基準を身に付け、世界で発言、議論すべく英会話力も高める。これらと並行して各自テーマを決めて実験及び臨床データからの学会発表、論文作成を行い、日本を代表する世界基準のECMO specialistの養成を図ることを目指している。	
研修内容・達成目標	①Respiratory ECMO管理 30例 ②E-CPR 36例 ③心臓血管手術12例 ④血管外科手術4例 ⑤呼吸器外科手術8例 ⑥小児ECMO 5例 ⑦肺移植(見学)2例 ⑧Mobile ECMO 4例 ⑨海外発表3例 英語論文2例 日本語論文6例 国内学会発表6例 ⑩臨床研究(ECMOに関するものを指導医と相談のもと決定)	
コース内容に関する 問合せ先	清水 敬樹 (東京都立多摩総合医療センター 救命救急センター部長) TEL:042-323-5111(代表)	